

ショートドラマ

# 『甘い毒』

新井勇斗 (26) 塾講師

石井愛美 (21) 大学生・勇斗の元生徒

志村裕貴 (30) バイテンダー

真鍋詩織 (26) 勇斗の彼女

カウンターで不慣れに飲んでる石井愛美(21)。

勇斗M

「あの夜のことを俺は何も覚えていない」

スーツ姿の新井勇斗(26)が入って来る。

愛美

「先生、やっと来た」

勇斗

「先生はやめろって」

相見の隣に座る勇斗。

愛美

「先生は先生じゃん。塾の」

勇斗

「俺とそんなに違わんだろ」

愛美

「そうだよ。違わないのに、いつも成人してからっ

て」

勇斗

「当たり前だ。捕まるのは俺だから」

愛美

「本当は彼女がいるからでしょ」

裕貴、グラスを勇斗に出す。

裕貴

「どうぞ。甘い毒という名のカクテルです」

勇斗

「まだ頼んでないけど」

愛美

「私が飲んで欲しくて選んだの。今日は、忘れて？

彼女のこと」

愛美、ジッと勇斗を見つめる。

勇斗 「これ飲んだら送るよ。ちゃんと彼氏作れ」

愛美 「いじわる」

グラスを飲み干す勇斗。

裕貴、勇斗の様子を伺う。

勇斗M 「この後、自分がしたことさえ、何も」

### 勇斗のアパート(朝)

ベッドに上半身裸で寝ている勇斗、目を覚ます。

横には下着姿の愛美が眠っている。

「え？」

狼狽する勇斗、愛美を恐る恐る起こす。

勇斗 「愛美ちゃん？」

触れようとして、自分の手が血だらけだと気づく。

勇斗、パニックになる。

愛美、目を覚ます。青い顔で後ずさる。

愛美 「先生？」

愛美、震えながらベッドの近くの床を指す。

脱ぎ捨てられた勇斗と愛美の服の上に詩織の死体がある。

	<p>3</p> <p>勇斗 「詩織!？」</p> <p>愛美 「先生、覚えてないの？」</p> <p>勇斗の部屋(夜・愛美の回想)</p> <p>ベッドに服を脱いだ勇斗、愛美の服を脱がせ始める。 詩織が入ってきて、二人を見て怒り出す。 「何してるの？」</p> <p>酔った勇斗、詩織を殴り、机の門で頭をぶつける。 気を失う愛美。</p>
<p>4</p>	<p>勇斗のアパート(朝)</p> <p>ベッドに腰掛けて頭を抱えている勇斗。 「……嘘だろ？」</p> <p>愛美 「どこから覚えてないの？」</p> <p>勇斗 「昨日、あのカクテルを飲んでから……」</p> <p>愛美 「じゃあ、私も先生の共犯者……？」</p> <p>勇斗、愛美を抱きしめる。 「違う。違うけど……どうすればいいか」</p> <p>愛美、勇斗を抱きしめ返す。</p>

<p>愛美 「……ねえ、隠しちゃおうか。……死体」</p> <p>愛美、勇斗に見えないよう、満足そうに微笑む。</p> <p>勇斗 「え？」</p> <p>愛美 「私が守ってあげる」</p> <p>すがるように抱きしめる勇斗と抱きしめ返す天使のような愛美。</p> <p>愛美の手は血で真っ赤に染まっている。</p>	<p>5</p> <p>勇斗のアパート（夜・愛美の回想）</p> <p>眠った勇斗の横で半裸の愛美に迫る詩織。</p> <p>詩織に掴まれて愛美、詩織を突き飛ばす。</p> <p>詩織、血を流して意識を失っている。</p> <p>酔いつぶれた勇斗の手に愛美の血をこすりつける。</p>	<p>6</p> <p>勇斗のアパート（朝）</p> <p>勇斗を抱きしめている愛美。</p> <p>愛美 「守ってあげるから、ずっとそばにいて」</p> <p>青ざめた顔の勇斗。凍りついたまま。</p>
--	--	--

---

勇斗M 「あの夜のごとは、何も覚えていない。甘い毒を飲んだ後、彼女に何をしたのかも。……もう、逃げられない」

終わり